

大谷大学のあゆみ

The History of Otani University Kiyozawa Manshi and Shinshu University



彰如上人筆「知進守退」碑（大谷大学正門横）

清沢満之と真宗大学



中村不折「清沢満之肖像」（部分）

二〇二二
四月一日金—五月十四日土

休館日 日・月曜、五月三日（火・祝）、四日（水・祝）、
五日（木・祝）〔ただし五月九日（月）は開館〕
開館時間 午前十時—午後五時（入館は午後四時三十分まで）
観覧料 無料

大谷大学博物館
Otani University Museum

- 35 日誌 1冊（7冊のうち）
紙本墨書 明治時代（明治31～40年＝1898～1907）
大谷大学図書館蔵
真宗大学で記された日誌。明治36（1903）年6月6日には、初代学監（学長）清沢満之の逝去について学内の様子が記されている。真宗大学は臨時休校し、午前10時の出棺時刻にあわせた講堂での追悼会で哀悼の意を表した。
- 36 所化学籍 1冊（2冊のうち）
紙本墨書 明治時代（明治32～35年＝1899～1902）
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
真宗大学入学者の学籍簿。所化とは学生のこと。東京開校当時は予科97名、本科61名、研究院17名の合計175名が在籍していた。
- 37 所化心得并寄宿舎規定 1枚
紙本活版 明治時代（20世紀）
大谷大学図書館蔵
真宗大学の学生の心得と学生寮の規則。学生の心得の第一は、「宗義を信奉し智慧をし、布教伝道の基を建つべきこと」と記される。学生の多くは構内の寄宿舎で共同生活を送った。
- 38 掛時計 1点
時計 明治時代（20世紀）
大谷大学博物館蔵
真宗大学時代に使用されていたと思われる掛時計。精巧舎（現セイコー）製。明治34年（1901）8月、実業家の玉塚栄次郎（初代）より寄贈された旨が記される。
- 39 真宗大学広蓋 1面
木製漆塗 明治時代（20世紀）
大谷大学博物館蔵
真宗大学で使用されていた式盆。背面に金字で「真宗大学」と記す。
- 40 西洋鐘 1点
青銅製 1903年製造
大谷大学図書館蔵
1903年の銘があることから、真宗大学時代に使用されていたものと思われる。「ALSTON／1903／WEST HARTLEPOOL」という刻銘がある。

- 30 真宗大学敷地購入校舎建築二関スル書類 1冊
紙本墨書 明治時代（明治32～33年＝1899～1900）
大谷大学図書館蔵
真宗大学東京移転の際の敷地購入・校舎建築に関する書類。清沢満之ら7人が建築掛に任命され、その用地は東京府北豊島郡巢鴨村大字巢鴨字宮仲（現東京都豊島区上池袋1丁目）に求められた。
- 31 「知進守退」碑拓本 1幅
紙本墨拓 原碑：明治時代（明治34年＝1901）
大谷大学博物館蔵
東京開校を記念して建立された石碑の拓本。清沢より教育を受けた東本願寺第23代彰如の筆になる。「知進守退」は中国北魏の僧曇鸞の著作『浄土論註』の文である。裏面には、第2代学長南条文雄による真宗大学の沿革が刻まれる。
- 32 真宗大学東京移転前集合写真 1枚
モノクロ写真 明治時代（明治34年＝1901）
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
真宗大学の東京移転に向けて、事務手続きや図書の整理などが行われていた時期に、教職員らが祇園で慰労会を行った。その際、慰労会の前に知恩院山門前で記念撮影をしたと関根仁応の日誌（同年6月23日付）に記されており、本写真がその折のものと考えられる。
- 33 真宗大学移転開校式（『無尽灯』6巻10号） 1冊
紙本活版 明治時代（明治34年＝1901）
大谷大学図書館蔵
明治34年10月13日、東京の真宗大学は開校式を挙げた。式典会場は図書館閲覧室で、初代学監（学長）清沢満之が「開校の辞」を述べた。ここで語られた清沢の言葉は今も大学の理念に受け継がれ、大切にされている。
- 34 毎学年各学科担任表 1冊
紙本墨書 明治時代（明治34～44年＝1901～11）
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
真宗大学の学科担任表。本科（宗門の須要に応じる学科を教授する）、予科（本科に入るための予備の課程）、各学年の学科担任者が記され、開校にあわせて教授陣の充実が図られたことがうかがわれる。

■新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、臨時休館となる場合もございます。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。

個人情報の取り扱いについて
ご提出いただいた個人情報は、大谷大学博物館への入館手続きおよび新型コロナウイルス感染拡大防止のために利用します。当館利用者に感染が確認された場合等、必要に応じて保健所等の公的機関に情報を提供することがあります。なお、連絡先等については厳重に管理し、適切な方法により廃棄いたします。



- 地下鉄烏丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「北大路駅前」下車
- 駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。

- ご来館にあたってのお願い
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下についてご理解とご協力をお願いします。
- 【ご来館の前に】
- HPに掲載している「入構セルフシート」を事前に印刷・ご記入のうえお持ちください。
- 来館予定2週間前からの検温をお願いします。
- 以下の方でご入館はお断りします。体調観察等にご協力ください。
 - ・本人または同居する人が息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、発熱や咳、味覚・嗅覚の異常等の強い症状の少なくとも1つ以上入館予定当日の朝からさかのぼって14日の間にある場合
 - ・本人または同居する人が過去14日以内に新型コロナウイルス感染症罹患者と接触のある場合
 - ・本人または同居する人が過去14日以内に渡航歴がある場合
- 【ご来館の際は】
- 北大路通に面する北門の守衛所に「入構セルフシート」をご提出ください。構内巡回等で守衛所が無人の場合は博物館受付にご提出ください。
- 入構時に検温をお願いします。37.5度以上の発熱が確認された場合は、入構をお断りします。
- 図書館や学内食堂等、博物館以外の学内施設の利用はできません。
- マスクを着用してください。着用いただけない方は入構できません。
- 手指消毒にご協力ください。
- 他の来館者との距離を保ち、会話はお控えください。
- 展示物・展示ケース等にお手を触れないようにお願いします。
- 展示室内が混雑する場合は、入館までお待ちいただくことがあります。予めご了承ください。

大谷大学博物館 Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町 響流館1F
Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146
https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

真宗大学 清沢満之と大谷大学のあゆみ

二〇二二年度 春季企画展

大谷大学は、江戸時代の寛文5年(1665)、東本願寺に創設された学寮を前身とします。その後、明治34年(1901)には、近代的な大学として「真宗大学」という名称で、東京巢鴨の地に開学されました。初代学監(学長)・清沢満之(1863～1903)は、真宗大学開学にあたり「本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、ことに仏教の中において浄土真宗の学場であります」と宣言しました。他の大学が近代的な諸学を求める中にあるって、真宗大学は宗教を中心とする大学として独自のあり方を築き上げました。そして、清沢満之の言葉を受け継ぎながら、大谷大学は仏教精神に基づいた人間教育を根幹にすえた教育・研究の歩みを重ねてきたのです。

本展覧会では、清沢満之、満之が東京時代に開いた私塾浩々洞、そして真宗大学の東京開校という三つの側面から、大学の歴史と歩みを紹介いたします。本学の創立に託された願い、本学が大切にしている理念の源に触れていただければ幸いです。

清沢満之

- | | |
|---|---|
| 1 | 清沢満之肖像 1幅 |
| | 紙本石版　中村不折筆
明治時代(明治42年＝1909)　大谷大学博物館蔵 |

清沢満之の肖像画。原画は明治から昭和にかけて活躍した洋画家の中村不折が描いた。また、若かりし日に満之より教育を受けた東本願寺第23代彰如(句仏)のユーモラスな歌「南瓜にも仏性あらばこの通り」が記されている。浩々洞が清沢7回忌に際して石版刷にして頒布した。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 2 | 宗教哲学骸骨 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治25年＝1892)
大谷大学図書館蔵 |
- 清沢30歳の著書で、代表作の一つ。「宗教と学問」「有限無限」などの6章から成る。この当時、清沢はミニマム・ポシブル(最小限可能の生活)を実践していた。清沢のこの時期の号でもあり、書名にも付けられた「骸骨」には、余計なものをそぎ落として道を求め続ける清沢の姿勢がみてとれる。

- | | |
|---|---|
| 3 | The skeleton of philosophy of religion (宗教哲学骸骨) 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治26年＝1893)
大谷大学図書館蔵 |

『宗教哲学骸骨』の英訳本。明治時代に活躍した「教談家」野口善四郎(復堂)訳。1893年のコロンビア世界大博覧会(於シカゴ)を機に、同地で万国宗教会議が行われ、そこに参加した野口は「世界の宗教(The Religion of the World)」という口頭発表の中で、普遍的な仏教思想の紹介書としてこの書を紹介した。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 4 | 歎異抄 1冊(2冊のうち) |
| | 紙本木版　江戸時代(元禄14年＝1701)
大谷大学図書館蔵 |
- 親鸞の門弟唯円の著作とされる。前半は著者が親鸞より聞いた法語を記し、後半では当時行われていた宗義の異説を批判して、正しい信心に目覚めるよう勧めている。清沢は『エピクテタス語録』『阿含経』を座右に置き、「余の三部経」と呼んで親しんだ。

- | | |
|---|----------------------------------|
| 5 | 阿含経(縮刷版大蔵経) 1冊 |
| | 紙本活版　大正時代(大正3年＝1914)
大谷大学図書館蔵 |

初期仏教の經典で、長・中・雜・雜一阿含の四阿含からなる。清沢は従来軽んじられてきた阿含経を「東洋第一の書」と尊び、釈尊の出家修道の精神、さらに親鸞聖人の説く「真の仏弟子」の意義を問うた。

- | | |
|---|--|
| 6 | The Teaching of Epictetus (エピクテタスの教訓書) 1冊 |
| | 紙本活版　1892年
大谷大学図書館蔵 |

大谷大学は、江戸時代の寛文5年(1665)、東本願寺に創設された学寮を前身とします。その後、明治34年(1901)には、近代的な大学として「真宗大学」という名称で、東京巢鴨の地に開学されました。

初代学監(学長)・清沢満之(1863～1903)は、真宗大学開学にあたり「本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、ことに仏教の中において浄土真宗の学場であります」と宣言しました。他の大学が近代的な諸学を求める中にあるって、真宗大学は宗教を中心とする大学として独自のあり方を築き上げました。そして、清沢満之の言葉を受け継ぎながら、大谷大学は仏教精神に基づいた人間教育を根幹にすえた教育・研究の歩みを重ねてきたのです。

本展覧会では、清沢満之、満之が東京時代に開いた私塾浩々洞、そして真宗大学の東京開校という三つの側面から、大学の歴史と歩みを紹介いたします。本学の創立に託された願い、本学が大切にしている理念の源に触れていただければ幸いです。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 7 | 保養雑記 1冊 |
| | 紙本墨書　明治時代(明治27年＝1894)
大谷大学博物館蔵 |

清沢は明治27年4月20日に肺結核の診断を受け、6月より兵庫県垂水にて静養する。本書は、この静養時期の7月28日から9月12日までの記録。この頃清沢は「石水」と号し、限界に達した健康状態の中でも探究心は衰えなかったという。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 8 | 清沢満之書簡 1通 |
| | 紙本墨書　明治時代(明治28年＝1895)
大谷大学図書館蔵 |

清沢はこの当時、東本願寺宗門の学事(教学・教育)を充実させようと、本山に財務整理と教学振興を献策し、学制改革に着手した。この改革運動は宗門中枢との対立により頓挫し、清沢と同志らは除名処分などを受けることになる。本品はこの頃の清沢の心境を知る好個の資料であり、本格的な教学刷新への決意が見受けられる。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 9 | 清沢満之書簡 1幅 |
| | 紙本墨書　明治時代(明治29年＝1896)
大谷大学博物館蔵 |

宗門改革運動に邁進していた時期の清沢が、同志である清川円誠に宛てた書簡。当時、清沢が仏果園悟禪師の『碧巖録』などの禪書を精読していたことがわかる。翌10月には、大谷派革新を訴える雑誌『教界時言』を創刊している。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 10 | 教界時言 1冊 |
| | 紙本墨書　明治時代(明治29年＝1896)
大谷大学図書館蔵 |

清沢が稲葉昌丸、井上豊忠、清川円誠、月見寛了ら同志とともに、京都白川村において「教界時言社」を設立し、そこから発刊された雑誌が『教界時言』である。10月に創刊され、改革運動に大きな影響を与えた。

- | | |
|----|--|
| 11 | 真宗大学東京移転記念集合写真 1枚 |
| | モノクロ写真　明治時代(明治34年＝1901)
真宗総合研究所大谷大学資料室蔵 |

これまで本願寺第8代蓮如400回御遠忌後に撮影された写真とされていたが、真宗大学主幹をつとめた関根仁応の日記から、移転前の記念として明治34年6月27日に、知恩院山門前で撮った写真であることがわかる。清沢のほか、南条文雄、曾我量深、金子大米、そして京都帝国大学教授で大谷大学でも教鞭をとった西洋哲学者の朝永三十郎ら錚々たる人びとの姿が見える。

- | | |
|----|---|
| 12 | 臘扇記(影印本) 2冊 |
| | 原本：紙本墨書　原本：明治時代(明治31～32年＝1898～99)
大谷大学図書館蔵 |

明治31年8月15日から翌年4月5日までの清沢の日記の影印本。この時期、清沢はみづからを無用の者という意味で「臘扇」と号し、失意と煩累の中で日々の出来事とその時々去来した思想や信念が吐露されている。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 13 | 清沢先生終焉記(『精神界』4巻6号) 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治37年＝1904)
大谷大学図書館蔵 |

清沢の最期を看取った清沢の侍者原子廣宣の日記。遺言を聞かれた清沢は「何にもない」という言葉を残した。『精神界』に掲載されたもので、清沢が自ら筆を執り、佐藤信次に宛てた端書きを付している。

- | | |
|----|---|
| 14 | 我は此の如く如来を信ず(我信念) 1枚(10枚のうち) |
| | 原本：紙本墨書　原本：明治時代(明治36年＝1903)
大谷大学博物館蔵 |

清沢の絶筆。晩年の清沢の信仰がうかがえる好個の資料。「私に対する」「無限の慈悲、無限の智慧、無限の能力」の実在を信じるのが「我信念」であると。如来を信ずることにおいて、虚心平氣にこの世に生死することを得るのが清沢の精神主義である。

浩々洞

- | | |
|----|--------------------------------|
| 15 | 浩々洞洞人寄書「師友相照」 1幅 |
| | 絹本墨書　明治時代(19～20世紀)
大谷大学博物館蔵 |

清沢と清沢のもとに集った若者たちが結成した私塾浩々洞。本品は清沢没後の記念に、洞人らによって作成されたと伝える寄書。洞人12名のほか、上部には清沢の次男即往による寄書もみられる。

- | | |
|----|----------------------------------|
| 16 | 浩々洞三羽烏墨跡 3幅 |
| | 紙本墨書　大正時代(大正2年＝1913)
大谷大学博物館蔵 |

若くして亡くなった暁鳥敏の妻房子のために、佐々木月樵・多田鼎・暁鳥敏の3人が揮毫した書。清沢のもとに最初に集まった3人は「浩々洞の三羽烏」と称された。

- | | |
|----|---|
| 17 | 精神界 1冊(141冊のうち) |
| | 紙本活版　明治～大正時代(明治34～大正8年＝1901～1919)
大谷大学図書館蔵 |

仏教の真意をわかりやすい言葉で一般の人に伝えるため、暁鳥敏の発案で浩々洞が刊行した雑誌。印刷を俳人の高浜虚子に相談し、表紙絵・カットを中村不折に依頼、表題「精神界」の3文字は中国唐代の書家である褚遂良の書から採字した。発刊の年10月には真宗大学が東京で開校されている。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 18 | 精神講話 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治42年＝1909)
大谷大学図書館蔵 |

浩々洞で毎日曜日に、清沢ら洞人によって催された講話のうちの清沢の講話集。「仏による勇氣」は明治35年(1902)1月26日の講話で語られたもの。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 19 | 仏教辞典 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治42年＝1909)
大谷大学図書館蔵 |

佐々木月樵を中心に浩々洞で編集・刊行した仏教辞典。見出し語は約2万、仏教用語のほかに人名・地名などを収録し、独特な読み方に呉音を付し、コンパクトながら総合的な仏教辞典となっている。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 20 | 真宗聖典 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治45年＝1912)
大谷大学図書館蔵 |

明治44年(1911)親鸞650回忌を機に、浩々洞で編集・刊行した聖典。大正年間に増補改版され、昭和4年(1929)には第98版に及んだ。

- | | |
|----|----------------------------------|
| 21 | 親鸞聖人御伝鈔講話 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治44年＝1911)
大谷大学図書館 |

親鸞650回忌に際して浩々洞で刊行された『御伝鈔』に関する講話。『御伝鈔』は本願寺第3代覚如が著した『親鸞伝絵』から詞書を抜き出したもの。内容からは親鸞の真実に迫ろうとする気概がうかがえる。

- | | |
|----|----------------------------------|
| 22 | 清沢先生の教訓 1冊 |
| | 紙本活版　大正時代(大正4年＝1915)
大谷大学図書館蔵 |
- 浩々洞で編集・刊した清沢の教訓書。清沢13回忌の記念として刊行された。浩々洞編『清沢満之全集』から、清沢の教訓となる100条をまとめたもの。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 23 | 清沢先生の信仰 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治42年＝1909)
大谷大学図書館蔵 |
- 「我は此の如く如来を信ず(我信念)」に関する暁鳥敏の講話集。清沢の7回忌に際し浩々洞が刊行した。清沢の東京大学時代以来の親友であり、清沢の改革運動に多大な協力をした沢柳政太郎(教育者・文部官僚)の序を付し、暁鳥の6回にわたる講話を収録する。

- | | |
|----|---|
| 24 | 清沢満之7回忌追悼会写真 1枚 |
| | モノクロ写真　明治時代(明治42年＝1909)
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵 |

清沢満之7回忌追悼会に際しての記念写真。真宗大学講堂および浅草本願寺において3日間にわたり追悼会および講話の会が開かれた。背景には真宗大学の東京開学を記念して建立された「知進守退」碑(後に大谷大学構内に移設)がみえる。

真宗大学東京開校

- | | |
|----|---|
| 25 | 真宗各学設立申請書控 1冊 |
| | 紙本墨書　明治時代(明治32～33年＝1899～1900)
大谷大学図書館蔵 |

東本願寺が創設した真宗大学、真宗京都中学、真宗東京中学などの設立申請書の控え。明治32年10月、真宗大学は私立学校認可の願いを京都府知事の内海忠勝に申請、同年11月7日、私立学校令により認可された。

- | | |
|----|---|
| 26 | 等位認定申請書類(『真宗大学条例』のうち) 1冊 |
| | 紙本墨書　明治時代(明治33年＝1900)
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵 |

明治33年2月、文部大臣の樺山資紀に等位認定を申請し、同月に認定された。等位認定とは、徴兵令第13条で、徴兵猶予された官立府県立中学校と同等以上と認めることである。

- | | |
|----|--------------------------------|
| 27 | 巢鴨村真宗大学ノ図 1枚 |
| | 紙本墨書　明治時代(19～20世紀)
大谷大学図書館蔵 |

巢鴨に開校した真宗大学構内の平面図。敷地の総面積は6,830坪、建築総面積は831坪余りで、教場・寄宿舎・閲覧室・書庫・食堂など16の建物からなる。総工費は57,000円で、工事は大倉組(大成建設の前身)が請け負った。明治33年(1900)7月着工、翌年9月落成。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 28 | 真宗大学附近五千分之一略図・真宗大学構内略図 1幅 |
| | 紙本活版　明治時代(明治34年＝1901)
大谷大学博物館蔵 |

真宗大学の周辺図および構内の略図。開校当時の巢鴨村は、のどかな田園風景が広がっていた。近隣に巢鴨監獄や東京真宗中学敷地などが記される。本品は真宗大学の機関紙『無尽灯』6巻10号の付録として付されたもの。

- | | |
|----|------------------------------------|
| 29 | 真宗大学新築の位置に就きて(『教界時言』第9号) 1冊 |
| | 紙本活版　明治時代(明治30年＝1897)
大谷大学図書館蔵 |

東本願寺の寺務改正と教学刷新を訴える清沢満之が、明治29年(1896)に創刊した雑誌『教界時言』に掲載した論文。真宗大学の所在地について、京都・東京の両京設置と東京先行を主張する。